愛　媛　新　聞　　月ぎめ定価3,086円（本体価格2,858円、消費税228円）・1部売り140円（税込み）　（第3種郵便物認可）

津波来たらどうする

国・県原子力防災訓練

避難訓練で三崎港からフェリーに乗り、大分県の佐賀関港に向かう三崎地域の住民＝9日午前10時20分ごろ、伊方町三崎

伊方原発 再稼働問題

海路避難 疑問の声

周辺混雑 港への移動も不安

四国電力伊方原発西側の伊方町三崎地域の住民が初めて大分県への避難を体験した9日の原子力防災訓練で、片道約4時間の道程に同行した。（1面参照）

午前9時すぎ、一時集結所の三崎総合体育館（伊方町三崎）に住民約70人が乗った町のバス5台が続々と到着。被ばくを抑える安定ヨウ素剤に見立てたあめを受け取り、再びバスで近くの三崎港へ向かった。

午前9時40分ごろ、外部被ばくの検査を終え、佐賀関港（大分市）行きの定期便到着を待つ。周辺は報道陣を含め大勢で混雑し、誘導役の町職員が集合を呼び掛ける声がなかなか届かない。三崎港から約3キロに位置する佐田地区の区長桜井正司さん(68)は「一部でこれだけごった返す。実際の事故時に港まで来られるのか」と心配する。

午前10時20分すぎ、住民約20人や中村時広知事らを乗せて先発した海上自衛隊の支援艦を見送った約50人と町職員2人も乗船。船内の急な階段に「高齢者が多ければスムーズな移動は難しい。もし誰かが転べば、大変なことになる」と不安を覚える。

30キロ圏内 屋内退避

西予の学校など スクリーニング検査も

伊方原発30キロ圏内の緊急防護措置区域（UPZ）にある西予市では9日、学校や社会福祉施設での屋内退避訓練や放射性物質が付着していないか確認するスクリーニング検査などを行った。

放射性物質から身を守る訓練を実施した皆田小学校（同市宇和町皆田）は、児童を外気に触れさせずに素早く避難するため、体育館ではなく教室を活用。午前9時すぎに防災行政無線で避難指示を受けると、児童64人がハンカチで口元と鼻を覆いながら5年生の教室に集合、教員らは布テープで手早く窓枠を目張りし、カーテンを閉めた。

冨永達也校長(52)は「原発だけでなく、火災や地震の避難訓練も行っているので、児童はうまくなっている。万が一に備えることが大事」と気を引き締めていた。

30キロ圏のやや外側に位置する野村ダム（同市野村町野村）付近では、八幡浜市から避難した住民らを乗せたバスなどの車両に、自衛隊などがスクリーニング検査を実施。近隣自治体の職員らが温水シャワーを浴びる除染訓練も行った。初めて除染した大洲市の男性職員(63)は「順調に進んだが、車のスクリーニングから除染まで30分近くかかった。もう少し時間短縮できれば」と話した。（和田亮）

放射性物質から身を守る訓練で、避難する皆田小の児童＝9日午前9時5分ごろ、西予市宇和町皆田

雲天で、波はあるものの船の揺れは小さい。住民は船内で思い思いに過ごし、定刻の午前11時40分ごろ佐賀関港に到着。大型バス2台で、避難所「ホルトホール大分」（大分市金池南1丁目）へ向かった。

出発から約4時間。徒歩での移動はほとんどなかったが、避難所に着いた途端にどっと疲れが出る。佐田地区で農業を営む長山松子さん(69)も「体調を崩す高齢者も多いのでは。避難が大変だとあらためて思った」とつぶやく。古里の様子に不安を募らせながらの避難なら、心身の疲労はどれほどだろうか。

初めての大分への避難訓練は、大きな混乱もなかった。しかし「海がこれほど静かなのは珍しく、実際はこんなにうまくはいかん」「津波が来たら大型船は入れず、港も使えない」と避難計画に疑問を持つ住民が絶えなかった。「本当の避難なら大ごと。泣いても泣ききれん」と険しい表情で避難所を後にした男性(78)の言葉が頭から離れない。（森口睦月）

伊方原発の緊急時対策所で重大事故対応を訓練する四国電力職員＝8日午前8時45分、伊方町九町

用を呼び掛け、参加者のまえ、ヨウ素剤を持って解を示していた。半数にあたる約40人がヨいない人に集結所で配布（藤中潤、藤田恵）

しんできた人がたくさんいる。新たな被ばくは絶対にのコメントを出した。（丸岡裕美）

事件・事故

◆恐喝の疑い　松山東署は9日、恐喝の疑いで松山市鴨川1丁目、職業不詳入交龍太郎容疑者(52)を逮捕した。容疑は7日午後6時半ごろ、松山市の宿泊施設で、県内の19歳の女性に「アルバイトをしていることを言われたくなければ50万円支払え」などと現金を要求し、7万円を脅し取った疑い。署によると、入交容疑者は「今は何も言いたくない」と話している。

◆脅迫容疑で逮捕　今治署は8日、脅迫の疑いで今治市高橋、無職光藤武博容疑者(37)を逮捕した。容疑は7日午後10時40分ごろ、面識のある同市の無職の男性(27)のアパート前で「殺すぞ」などと怒鳴り、男性を脅迫した疑い。

郵便計2万9000通 2年間配達せず

香川の女性局員

日本郵便四国支社（松山市）は9日、香川県三豊市の高瀬郵便局駐在の女性局員(23)が約2年間、郵便物計約2万9千通を配達せずに自宅や自家用車などに隠し持っていたと発表した。女性局員は「仕事をやる気がなくなった」と話しているという。

日本郵便によると、故意に配達しなかった郵便物数としては、2007年の郵政民営化以降、最多となる。

四国支社によると、女性局員は3年2月～今年7月

集物船8日午前1時5分ごろ、松山市沖（第6管区海上保安本部提供）